

# MOVEMENT

vol. 20

第72期 中間株主通信

2017年4月1日 ▶ 2017年9月30日

## CONTENTS

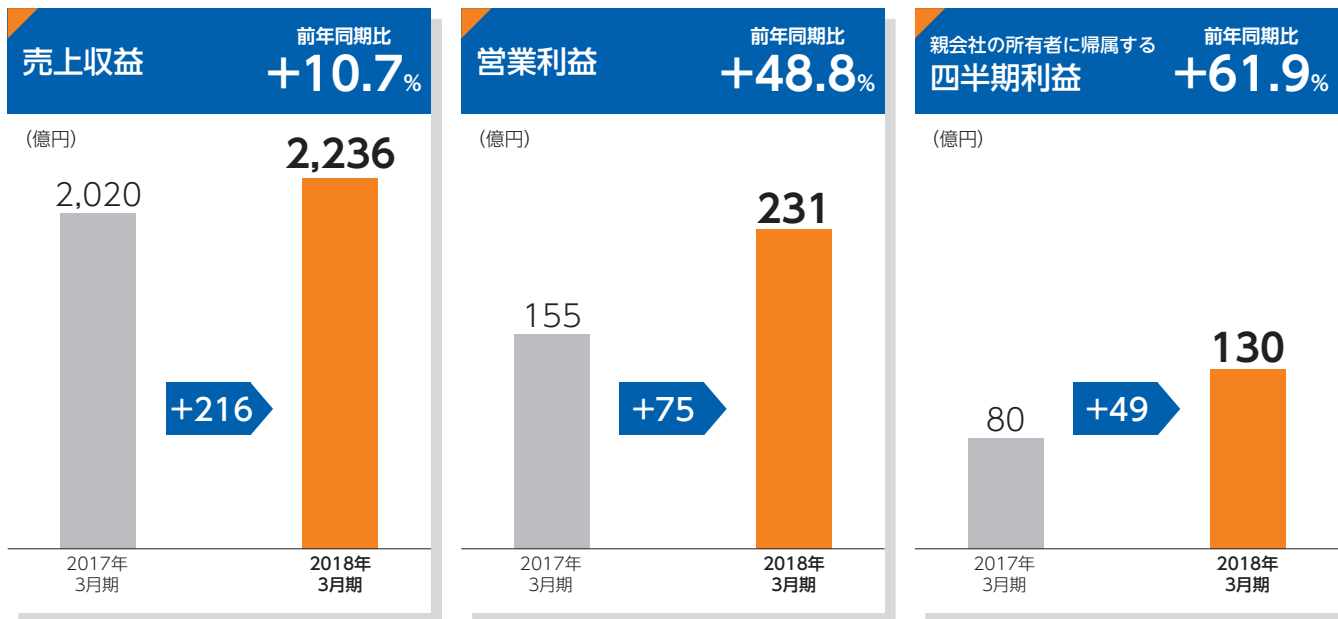
2018年3月期 中間連結決算ハイライト	1
株主の皆さまへ	2
TOPICS・TS Technology	3
主な生産開始機種	4
Series TS Tech	5
ESGへの取り組み	7
連結決算情報	9
会社概要・株式情報	裏表紙



Honda CR-V 用シート

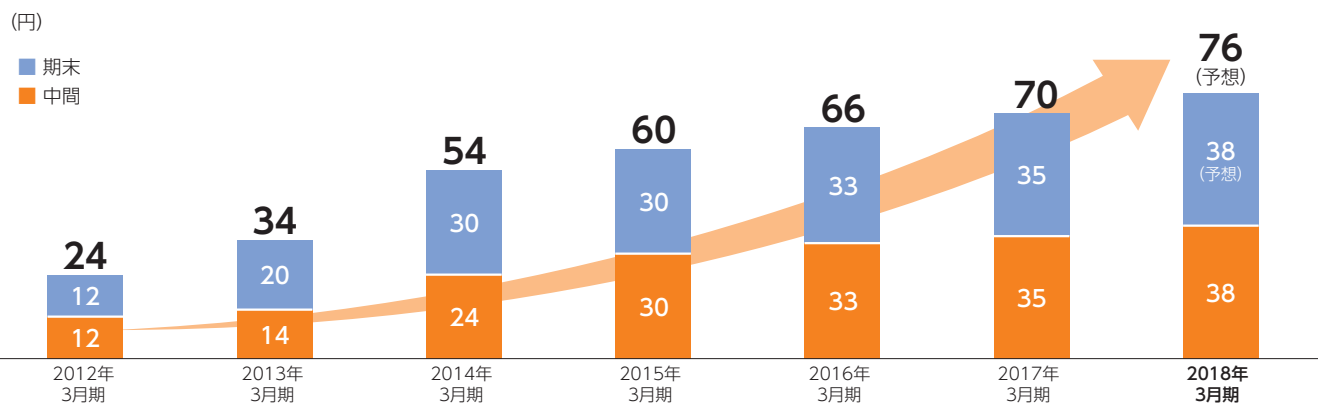
**Tech**  
ティ・エステック株式会社

証券コード 7313



※億円未満は切り捨て表示

## 1株当たり配当金の推移





### 理念

「人材重視」「喜ばれる企業」

### 社是

わたしたちは 常に モノづくりに夢を求めて  
無限の可能性に  
挑戦し  
快適で良質な商品を  
競争力のある価格で 世界のお客様に  
提供する



代表取締役社長

井上 満夫

## 「第72期中間株主通信MOVEMENT」をお届けするにあたりご挨拶申し上げます

当上半期(2017年4月1日～9月30日)の世界経済は、総じて緩やかな回復基調であったものの、自動車市場においては、米国で金融危機以降の販売増勢を下支えしていた需要の一巡や、中国の小型車減税措置縮小による販売台数増勢の鈍化等、引き続き厳しい環境となりました。

このような状況のなか、当社の連結業績は、中国セグメントを中心とした主要客先からの受注台数の増加、及び、各地域で取り組んでいる自動化設備導入による合理化や原価低減に加え、中国広州工場の移転完了に伴う政府補償金の受領、円安による為替効果等により、前年同期比で増収・増益となりました。

下半期につきましては、新規受注機種の生産開始等に伴う生産台数の増加を予定しております。また、合理化や原価低減等に引き続き積極的に取り組むことで、さら

なる競争力向上に努めてまいります。

なお、通期見通しにつきましては、上半期の増収効果に加え、中国セグメントを中心とした主要客先からの受注台数増加や機種構成の良化を見込み、売上高4,630億円(期初見通し4,350億円)、営業利益430億円(同400億円)、親会社の所有者に帰属する当期利益248億円(同230億円)と、期初見通しを上方修正させていただきました。

2018年3月期の1株当たり年間配当は、このたび実施いたします中間配当38円と、期末配当38円(予想)を加えた76円(前年比+6円)を予定しております。

当グループはこれからも、安定的な株主還元に努めてまいりますので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

2017年

4月

**鈴鹿8耐ロードレース 初参戦で完走!**

2017年7月27日(木)~30日(日)、当社代表取締役社長井上満夫が監督を務める「Team SuP Dream Honda\*」は、『“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第40回記念大会』に初参戦し完走を果たしました。

14番手からスタートした決勝レースは、83週目には7位まで順位を上げたものの、コーナーで転倒し順位が後退。

しかし、チーム丸となって懸命に挽回を目指し、8時間に及ぶ過酷なレースを完走し、42位でフィニッシュしました。

※ Team SuP Dream Honda  
ホンダ二輪車を支えるパーツサプライヤー16社とホンダ購買部門で結成されたレーシングチーム。



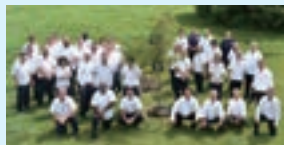
疾走する伊藤真一選手

5月

**TRI-CON INDUSTRIES, LTD.40周年**

2017年7月、米国生産子会社のTRI-CON INDUSTRIES, LTD.が設立40周年を迎えました。

同社は、海外に生産拠点を構える日本企業がまだ少なかった1977年、テイ・エス テック グループ初の海外進出拠点として、米国ネブラスカ州に設立されました。



40周年記念植樹

いち早く海外に進出したことで蓄積された海外拠点運営のノウハウ等は、今日のグローバル展開に活かされています。

7月

**第12回 日経IR・投資フェア2017 出展**

2017年8月25日(金)・26日(土)、東京ビッグサイトにて開催された『日経IR・投資フェア2017』に、昨年に続き出展しました。当社ブースや大会場での会社説明会には、多くのお客さまにお越しいただき大変賑わいました。

当社では個人投資家や株主の皆さまとの対話を重視し、今後もさまざまな取り組みを展開してまいります。



多くのお客さまにお立ち寄りいただきました

9月

**CR-V用シート  
の魅力**

**Q** 今回のシートのセールスポイントを教えてください。

**A** シートヒーター性能世界TOPクラスを目標に初のECU\*1自社開発に挑戦しました。

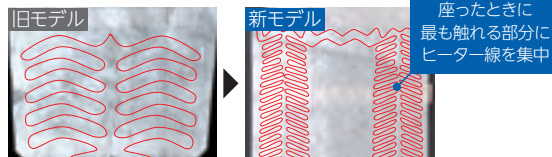


LPL / 岡部 雅宏

新型CR-V用シートでは、「シートヒーターの暖まるスピード世界TOPクラス」を目標に開発を進めました。同車は、寒い地域で使われることも多く、シートが早く暖まるのが喜ばれます。単純に、電力をたくさん使えば暖まるスピードは向上しますが、リスクも増え、

今後の電気自動車等の時代を見据えると、これまで以上に電力を使うことは極力避けるべきです。そのため、“効率良く”暖まるスピードをアップさせるため、“ヒーター線の配置見直し”を行いました。いかに効率良く、乗っている人に暖かさを感じてもらえるか、ということを考え、ヒーター線配置を工夫することで、暖まるスピードを向上させています。

クッションのヒーター線配置新旧比較



座ったときに最も触れる部分にヒーター線を集中

ヒーター線の配置変更に合わせて、初の自社開発ECUを搭載しました。このECUは、稼働時のヒーター線の温度状態を読み取り、ヒーター線に送る電力量を制御する部品です。今回のシートヒーターシステムでは、必要最小限の消費電力で素早く狙った座面温度になるよう制御しています。初めての量産化にあたり、全社丸となって試行錯誤を重ねたことで、コスト面でも他社に負けぬECUができました。

\*1 ECU: Electronic Control Unitの略。システムを電子回路で制御する装置のこと。

世界中のユーザーから愛されるHonda「CR-V」が5代目にフルモデルチェンジ。

新型CR-Vに搭載されているシート(座席)の魅力について岡部LPL※に話を聞きました。

※LPL：ラージプロジェクト リーダー

**Q** リアシート（後席）の特徴は？

**A** SUV※2のリアシートとして使いやすく、荷室は“さらに広く”を目指しました。

開発にあたり、もう1つの大きな目標が「荷室の拡大」でした。もちろん旧モデルも十分広がったのですが、SUVとしての魅力向上のため、“さらに広く”することを目指しました。

旧モデルのリアシートは、レバーを引くと座面とクッションが前方に跳ね上がりシートが収納される方法を採用していました。(図1参照)

新型では、利便性も損なわないダイブダウン※3法に変更しました。これにより、室内空間をより広く、さらにフルフラットな荷室を実現しました。

また、安全性や乗り心地など旧モデルの性能を維持しつつ、シートを薄くしたことで20%以上軽量化しています。“重さ”は燃費性能に直結しますので、軽くなったことで、燃費向上や環境配慮にもつながっています。

※2 SUV：Sport Utility Vehicleの略。スポーツ用多目的車。オフロード用四輪駆動車と、一般的な乗用車の中間に位置する自動車。

※3 ダイブダウン：シートの背もたれを前方に倒した際に、連動して座面が沈み込む機構のこと。(図1参照)



**Pick UP!**

**Honda CR-V**

生産開始国  
タイ、中国など



**Honda (U.S.) ODYSSEY**

生産開始国  
米国など



**Honda N-BOX**

リアシート  
生産開始国  
日本



**Honda CIVIC TYPE R**

生産開始国  
英国



図1







## 第45回 東京モーターショー2017 出展

2017年10月27日(金)～11月5日(日)にかけて、東京ビッグサイトで「第45回東京モーターショー2017」が開催されました。当社ブースでは、未来を体感できる展示品の数々を出展いたしました。

### 「お客様の期待を超える」を目指して

当グループが掲げるコーポレートメッセージ「Beyond Comfort」には「…今に縛られず、今を超えて創造し、すべてのステークホルダーに喜びを提供していきたい」という想いが込められています。「第45回東京モーターショー2017」への出展にあたって、当グループは「お客様の期待を超える」ことを目指した製品を発表しました。

### そう遠くない未来を体感できる展示品の数々

今回、当グループが培ってきた「魅力技術」「電装技術」「センシング技術」を活かし、「未来」を身近に感じることができる製品を数多く展示しました。なかでも「運転しながらエクササイズ」できる“エクサライドシート”は、多くのお客さまからご好評いただきました。

詳細はホームページをご覧ください！



<http://www.tstech.co.jp>



「運転しながらエクササイズ」できる

# エクサライドシート

created by 座ラボ

座った人の体格を認識し、シートポジションを最も快適な位置に自動調整。現状姿勢の課題をお知らせし、理想の姿勢に促します。さらに、座るだけで運転状況に応じたエクササイズを実施し、運動不足解消の一助になるシートを開発しました。

シートの座面部には、骨盤を動かす装置が内蔵されており、乗員に体幹運動を促します。この運動は、運動強度レベル3にあたり、65kgの成人男性の場合、当社が想定した運転状況下において、30分の運転で約100kcalを消費することが確認できています。



### 有人宇宙船シートコンセプト



当社は、東京大学・宇宙航空研究開発機構(JAXA)との社会連携講座において、安全評価技術の開発を目的とした研究に取り組んでいます。

今回の東京モーターショーでは、この研究から得られた有人宇宙船における乗員安全評価法と、その基礎となる物理モデルをベースとしたシートコンセプトを参考出品しました。

### やすらぎ空間（シート）

まるで浮いているような着座感覚により、走行中に受けるさまざまなストレスを取り除き、『究極のやすらぎ』を提供することを目指したコンセプトモデルです。

また、このシートには着衣のまま心拍を測定できるセンサーを内蔵しており、心拍値を「やすらぎ度合い」の目安のひとつにしています。



世界を、ここから動かそう。

BEYOND THE MOTOR

TMS  
TOKYO MOTOR SHOW 2017

## 持続可能な社会への貢献

社会問題が複雑化する一方、その解決に向けて、企業が果たすべき責任への期待が高まりを見せています。当グループでは、企業理念である「喜ばれる企業」を体現し、社会と共に一層の成長を遂げるためには、ESG\*の各要素に十分配慮した観点での取り組みが必須であると考えます。第13次中期経営計画（2017年4月～2020年3月）では、経営方針を「ESG経営の基盤構築」と定め、事業を通じて世界中の人々に感動してもらえる製品を提供することはもとより、社会とのより強い関わりを通じて、すべてのステークホルダーの皆さまから存在を期待され、「喜ばれる企業」となることを目指してまいります。



### 第13次中期経営計画 3つの企業重点施策

(2017年4月～2020年3月)

「ESG経営の基盤構築」を支える企業重点施策として、「継続的な事業成長」「ダイバーシティマネジメントの実践」「社会環境との共生」の3つを設定しました。さらにこの企業重点施策を達成するために、8つの企業施策を定め、グローバル全拠点でESG経営に取り組みます。

経営方針	企業重点施策	企業施策
ESG 経営の 基盤構築	継続的な事業成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界No.1品質体質の実現</li> <li>部品競争力世界TOPの実現</li> <li>他販事業の拡大</li> <li>事業成長を支える財務戦略</li> </ul>
	ダイバーシティマネジメントの実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営の現地化に向けた人材育成</li> <li>多様性を活かす仕組み作り</li> </ul>
	社会環境との共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全に配慮した企業活動</li> <li>社会貢献活動</li> </ul>

\* ESG・・・Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の頭文字



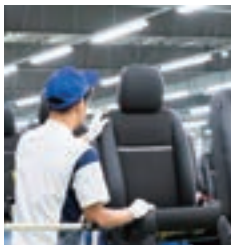
## 環境に配慮した製品と生産現場



約10年間で  
シートフレーム  
(骨格)重量軽量化

約**20%**

開発現場では、シートの安全性能を維持・向上させつつ、軽くできるように、加工技術や合理化設計などを推し進めています。その結果、部品点数を削減し、モデルを経るごとに軽量化を実現。燃費向上や、材料削減による資源節約につなげています。



2017年度 CO<sub>2</sub>排出量削減目標

台あたり原単位※ **1%**削減  
2016年度比

2016年度CO<sub>2</sub>排出量台あたり原単位：9.9kg-CO<sub>2</sub>/台

※台あたり原単位

事業活動による1台分の製品生産に対する、当社基準により算出したCO<sub>2</sub>排出量を示します。

生産現場では、原材料の見直しや、生産ラインの改善、高効率空調の導入、LEDなどの省エネルギー照明の導入をはじめ多岐に渡る側面から日々、CO<sub>2</sub>排出量削減に努めております。CO<sub>2</sub>を排出する“クルマ”に関わるメーカーだからこそ、今後も低炭素社会の実現に向けた取り組みを行ってまいります。

## 積極的に行われる社会貢献活動



アメリカ



中国

社会貢献の実施件数

**560**

第12次中期

2014年4月～2017年3月

緑の生態系保全活動や小学校での教育支援、子どもたちへの交通安全教室など全国各地域の特性に沿った社会貢献活動をグローバルに展開しています。当グループはこれからも地域との共生を図り、社会から存在を期待され、「喜ばれる企業」を目指してまいります。



インド



日本

## 2017年度東洋経済 ESGランキング

ESG経営を推進する当グループは、上記で紹介した取り組みのほか、障がい者雇用やワークライフバランスなど、雇用・人材活用にも注力しており、東洋経済新報社が発表した「有給休暇を取得しやすい」300社ランキングにおいては第2位を獲得、さらに、厚生労働大臣から「女性活躍を推進している企業」としても新たに認定されています。そして、ESG観点から企業を総合的に判断する東洋経済新報社の「ESG企業ランキング2017」では、1,408社中75位という評価を得ています。



その他取り組み内容は、当社ホームページ「CSR情報」をご覧ください。

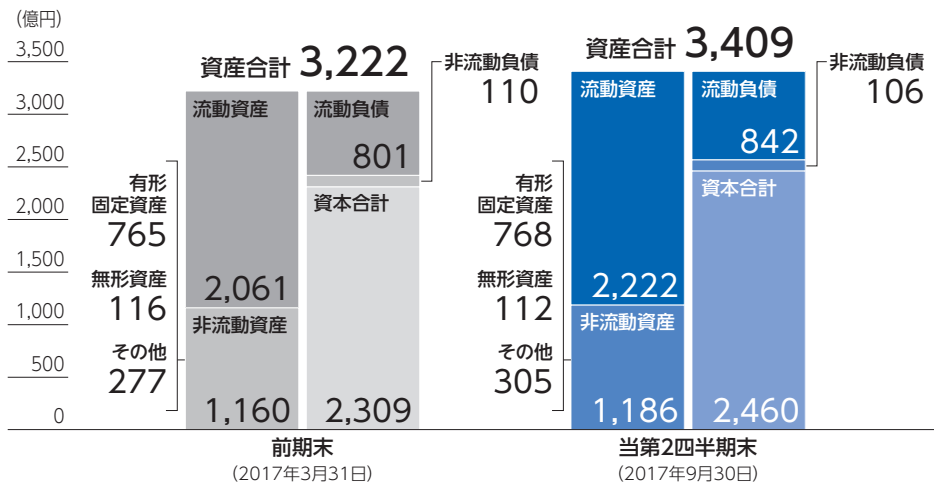
統合レポート「ティ・エス テックレポート2017」も公開中！



ティエス ESG 検索

<http://www.tstech.co.jp/csr/>

連結財政状態計算書

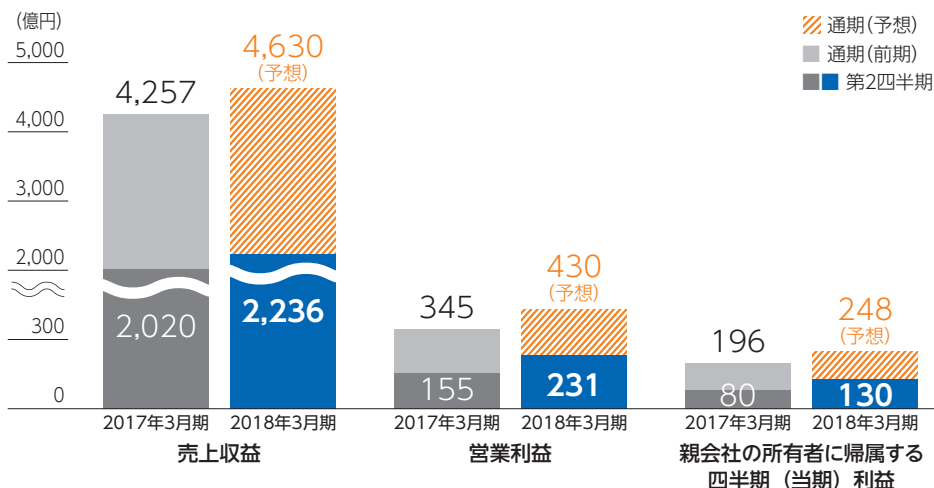


ここがポイント

増益により資産増加  
受注好調につき、  
営業債務が増加するも  
自己資本比率は上昇

- 資産合計の増加は、利益増加等により現金及び現金同等物が増加したことが主な要因です。
- 負債の増加は、主要客先からの受注台数の増加により営業債務及びその他の債務が増加、また利益増加により未払法人所得税等が増加したことが主な要因です。

連結損益計算書 (通期見通し)

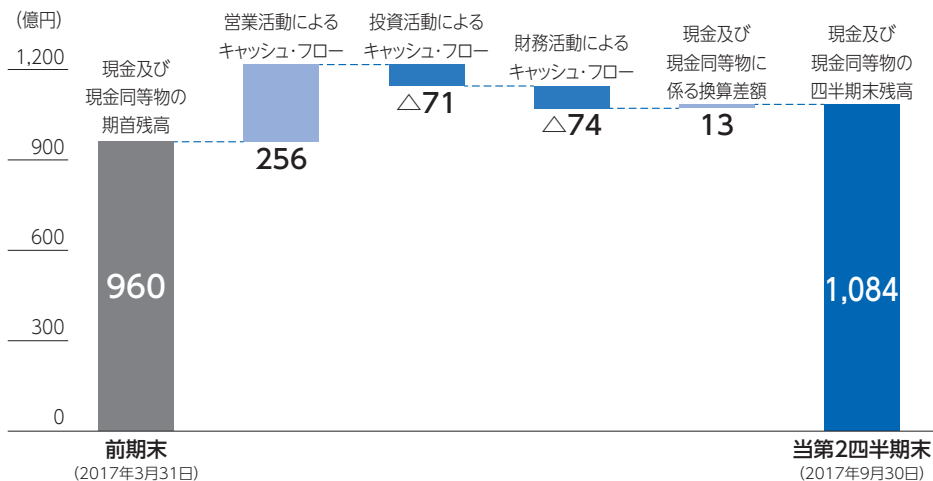


ここがポイント

受注台数増加、機種構成の良化  
により増収・増益の見通し

- 売上収益は、主要客先からの受注台数増加や機種構成の良化等により増収となる見込みです。
- 営業利益は、増収効果や合理化に加え、中国広州工場の移転完了に伴う補償金等により増益となる見込みです。

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (第2四半期)



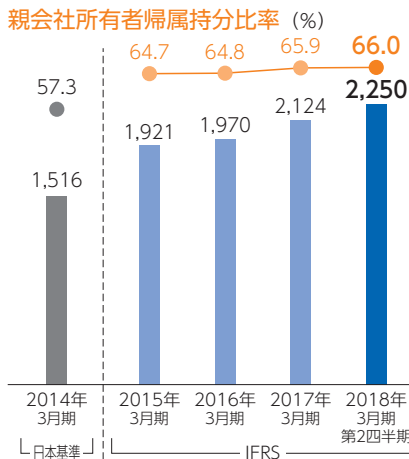
### ここがポイント

#### 積極的な設備投資を行うも、利益増加により資金増加

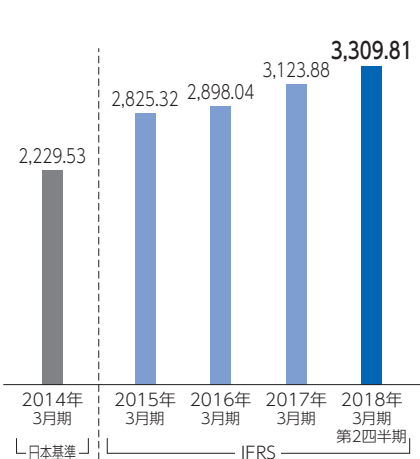
- 営業活動による資金の増加は、税引前四半期利益244億円が計上されたことが主な要因です。
- 投資活動による資金の減少は、有形固定資産の取得による支出が主な要因です。
- 財務活動による資金の減少は、株主及び非支配持分への配当金の支払いが主な要因です。

## 各種指標

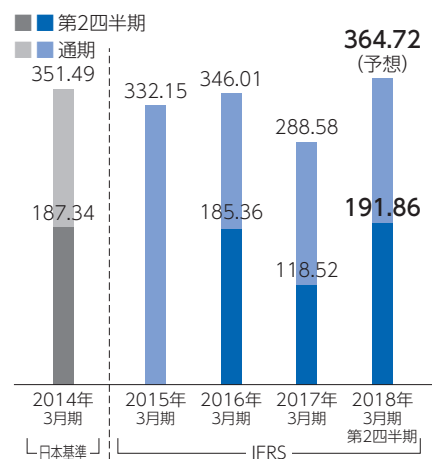
### 親会社の所有者に帰属する持分 (億円)



### 1株当たり親会社所有者帰属持分 (円)



### 基本的1株当たり利益 (円)



(注) 1. 2016年3月期より、国際会計基準 (IFRS) を適用しておりますが、比較可能性の向上のため、2015年3月期についてもIFRSで記載しています。  
 2. IFRSに準拠した用語について、日本基準による用語では、「自己資本」は「親会社の所有者に帰属する持分」、「自己資本比率」は「親会社所有者帰属持分比率」、「1株当たり純資産」は「1株当たり親会社所有者帰属持分」、「1株当たり純利益」は「基本的1株当たり利益」となります。

## 会社概要 (2017年9月30日現在)

商号 ティ・エス テック株式会社  
 設立 1960年12月5日  
 資本金 4,700百万円  
 事業の内容 四輪車用シート、四輪車用内装品、二輪車用シート、二輪車用樹脂部品等の製造販売

従業員数 1,724名

主な取引先 本田技研工業株式会社、株式会社本田技術研究所、株式会社ホンダトレーディング、株式会社ホンダアクセス、スズキ株式会社、ヤマハ発動機株式会社、川崎重工業株式会社、パラマウントベッド株式会社

## 役員 (2017年9月30日現在)

取締役社長 (代表取締役)	いのうえ みちお 井上 満夫	取締役	あらい ゆたか 新井 裕
専務取締役 (代表取締役)	ゆい よしあき 由井 好明	取締役	いがき あつし 井垣 敦
専務取締役 (代表取締役)	やすだ まさなり 保田 真成	取締役	ありが よしかず 有賀 義和
専務取締役	まえだ みのる 前田 稔	社外取締役	きたむら しずお 北村 静夫
常務取締役	なかしま よしたか 中島 義隆	社外取締役	むたくち てるやす 牟田口 照恭
常務取締役	よしだ ひと均 吉田 均	監査役	みよた あきひろ 御代田 昭博
常務取締役	ませ こういち 間瀬 恒一	監査役	やまざき せんぞう 山崎 仙三
常務取締役	はやし あきひこ 林 晃彦	社外監査役	もとだ たつや 元田 達弥
常務取締役	はせがわ けんいち 長谷川 健一	社外監査役	かわした あきら 川下 明

当社の決算情報をはじめ、株主優待のご案内などは、当社 IR サイトでも詳しくご案内しております。

<http://www.tstech.co.jp>



## 株式情報 (2017年9月30日現在)

発行可能株式総数 272,000,000株  
 発行済株式総数 68,000,000株  
 株主数 7,333名

### 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
本田技研工業株式会社	15,360	22.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,655	5.38
三井住友海上火災保険株式会社	2,451	3.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	2,199	3.23
住友生命保険相互会社	1,940	2.85
株式会社埼玉りそな銀行	1,720	2.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,687	2.48
株式会社ブリヂストン	1,536	2.26
GOVERNMENT OF NORWAY	1,456	2.14
太陽生命保険株式会社	1,400	2.06

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

単元株式数 100株

基準日 定時株主総会の議決権 毎年3月31日

期末配当 毎年3月31日

中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。公告掲載URL (<http://www.tstech.co.jp>)